

CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)泰興第一工場	階数	地上2階
建設地	愛知県蒲郡市金平町西田74番1、74	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年12月 予定	評価の実施日	2024年3月10日
敷地面積	4,082 m ²	作成者	牧 安彦
建築面積	2,243 m ²	確認日	2024年3月15日
延床面積	3,135 m ²	確認者	牧 安彦

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 81%
③上記+②以外の 81%
④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性

LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数			
		Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境													3.0
1 音環境													2.1
1.1 室内騒音レベル				0.1	2.1	0.15	-	-	-	-	-	2.1	
1.2 遮音				3.0	3.0	0.40	-	-	3.0	-	-		
1.2.1 開口部遮音性能				0.4	1.8	0.40	-	-	-	-	-		
1.2.2 界壁遮音性能				-	1.0	0.60	-	-	3.0	-	-		
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.40	-	-	3.0	-	-		
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-	-	-	3.0	-	-		
1.3 吸音				-	1.0	0.20	-	-	3.0	-	-		
2 温熱環境													3.0
2.1 室温制御				0.3	3.0	0.35	-	-	-	-	-		
2.1.1 室温				0.5	3.0	0.50	-	-	-	-	-		
2.1.2 外皮性能				3.0	3.0	0.38	-	-	3.0	-	-		
2.1.3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.25	-	-	3.0	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-		
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.20	-	-	3.0	-	-		
3.0 3.0				3.0	3.0	0.30	-	-	3.0	-	-		
3 光・視環境													3.0
3.1 昼光利用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	-	-		
3.1.1 昼光率				0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-		
3.1.2 方位別開口				3.0	3.0	0.60	-	-	-	-	-		
3.1.3 昼光利用設備				-	-	-	-	-	3.0	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	3.0	0.40	-	-	3.0	-	-		
3.2.1 昼光制御				0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-		
3.3 照度				5.0	3.0	1.00	-	-	3.0	-	-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.15	-	-	3.0	-	-		
4.0 3.0				3.0	3.0	0.25	-	-	3.0	-	-		
4 空気質環境													3.7
4.1 発生源対策				0.2	3.7	0.25	-	-	-	-	-		
4.1.1 化学汚染物質			建築材料はF☆☆☆☆のものを採用	0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-		
4.1.2 換気				3.0	4.0	1.00	-	-	4.0	-	-		
4.2 換気				0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-		
4.2.1 換気量				3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-		
4.2.2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	-	-	1.0	-	-		
4.2.3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-		
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-		
4.3.1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-		
4.3.2 喫煙の制御			建物全体禁煙	3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能													2.9
1 機能性													2.9
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.9	0.40	-	-	-	-	-		
1.1.1 広さ・収納性				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-		
1.1.2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-		
1.1.3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				0.3	2.3	0.30	-	-	-	-	-		
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-		
1.2.2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-		
1.2.3 内装計画				3.0	1.0	0.33	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30	-	-	-	-	-		
1.3.1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-		
1.3.2 維持管理用機能の確保			維持管理のための清掃道具置場や専用流しを設ける	-	4.0	0.50	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性													2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	2.8	0.31	-	-	-	-	-		
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-		
2.1.2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.2.1 躯体材料の耐用年数				0.3	2.7	0.33	-	-	-	-	-		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	-	-		
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-	-		
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-	-	-	-		
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔				-	2.0	0.23	-	-	-	-	-		
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-		
2.4.1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.4.2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.4.3 電気設備		②		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.4.4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.4.5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-		

3 対応性・更新性					0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり					0.3	3.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					-	3.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.1	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性			②	天井スペースの確保	-	4.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.40		-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	2.0	0.40		-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-		-	-	3.3
LR1 エネルギー						-	0.40		-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m 058	3.0	5.0	0.01		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.28		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI _m 0.61	3.0	4.9	0.43		-	-	4.9
4 効率的運用					0.2	3.0	0.29		-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	-	2.8
1 水資源保護					0.1	2.2	0.15		-	-	2.2
1.1 節水					3.0	1.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63		-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用	3.0	4.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22		-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68		-	-	
1 消火剤					-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				現場発泡となる断熱材は不使用	-	5.0	0.50		-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①	換算スコア3.7	-	3.7	0.33		-	-	3.7
2 地域環境への配慮					0.3	2.8	0.33		-	-	2.8
2.1 大気汚染防止				燃焼機器を使用しません。	-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.5	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33		-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動			独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭					-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-		-	-	
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				照明の点滅・移動・着色等しない	-	5.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

【仮称】東興第一工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)泰興第一工場

計画上の配慮事項	
総合	外皮に十分な断熱性能を施して熱損失を抑制すると共に、高効率機器や節水型機器を採用し、敷地内温熱環境の向上や資源の保護に努めている。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避している。
Q2 サービス性能	給排水配管において更新必要間隔の長い配管を採用している。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地を適度に設けてまちなみや景観に配慮している。
LR1 エネルギー	高効率設備や自動水栓を採用することで一次エネルギー消費量を削減し、環境負荷への配慮をしている。
LR2 資源・マテリアル	躯体+軽鉄+仕上材のデテールを採用している。
LR3 敷地外環境	外部に漏れる照明に着色・点滅・移動等をしない設計としている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。